

## 平成26年度 全国学力・学習状況調査 箱根町立小・中学校の調査結果について

### 1 調査の目的（文部科学省より）

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる

### 2 調査実施日

平成26年4月22日（火）

### 3 調査対象

文部科学省…国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒  
箱根町……町立小学校6年生（3校：74名）、町立中学校3年生（1校：77名）

### 4 調査内容

#### （1）教科に関する調査

- ◆国語A、算数A・数学A（主として「知識」に関する問題）
  - \*身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
  - \*実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能
- ◆国語B、算数B・数学B（主として「活用」に関する問題）
  - \*知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
  - \*様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力

#### （2）児童生徒に対する質問紙調査

- \*学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関すること

### 5 箱根町立小・中学校における調査結果の分析について

箱根町教育委員会では、町立小・中学校における教育の重点策の一つとして、平成24年度より箱根教育の一環である「箱根ミニマム」を推進し、学習に関わる基礎基本の定着を目指してきました。さらに、児童生徒の学習意欲を高めるために家庭学習の習慣化や読書活動の充実に向け、学校と家庭が連携し、取り組んでまいりました。

「全国学力・学習状況調査」は平成19年度より実施され毎年、全国や県の平均正答率が出されていますが、ご承知のとおり、全国では100万人以上を対象にしたデータであり、本町の80名にも満たない児童生徒数との数値比較では、調査の目的（◇前述）に合致しないと考えております。

このような点から本町では、児童生徒の良好であった点や的確に捉えていない点を具体的に把握し、今後の子どもたちの学習等に生かせるよう調査結果分析を行いました。

町民の皆さまにおかれましては、本調査の目的及び分析の結果についてご理解いただくとともに、家庭や地域における教育環境整備にご協力・ご支援をお願いします。

(1) 教科に関する調査結果の分析内容について

【小学校】

国語の調査について

Aの調査では、箱根ミニマムの成果であると考えられる漢字の読み・書きの問いでは、比較的良好な結果であるが、故事成語の意味と使い方を理解しているかという問いや前後の文脈から、物語の登場する人物についての描写や心情、人物相互の関係については、的確に捉えていないことがわかった。

Bの調査では、話し合いにおける目的に応じ、観点を整理して進めていく問いでは、二人の共通点をまとめたり、質問のねらいを把握することには比較的良好である。しかし、分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関連付けながらまとめ、「例えば」という言葉を使って具体的な事例を示したりして、字数など条件に合わせて文章を書くことや、二つの詩を比べて読み、内容や表現の工夫を理解し、共通点や相違点に着目して自分の考えを書くことが課題である。

算数の調査について

Aの調査では、基本的な計算問題について良好な結果であった。これは箱根ミニマムの成果と考えられるが、減法（ひき算）と乗法（かけ算）の混合した整数の計算では、計算方法（乗法を優先して計算すること）を的確に捉えていない児童も見られる。さらに乗法や除法の意味の理解や、異なった二つの量の割合としてとらえる数量についての表し方の理解や、作図に用いられる図形の約束や性質の理解が不十分であると捉えている。

Bの調査では、示された場面から計算の結果の見通しを立てて、筆算する力はあるが、示された情報を整理し、筋道を立て、求め方を適切な言葉や式を用いて記述する力が不足している。

また記述問題の無回答率がやや高く、記述への取組む姿勢についても課題として捉えている。

【中学校】

国語の調査について

Aの調査では、漢字の読み・書きの問いについて大変良好な結果であり、箱根ミニマムの成果と考えられる。さらに、集めた材料を分類・整理し、目的や意図に応じて適切に書き換える問いも大変良好な結果である。一方、文脈の中で語句の意味を理解した適切な使い方や、語句の意味について辞書を活用し適切に書く問いでは、二つの条件を満たす正答に対して、一つの条件だけで解答している生徒が比較的多いことから問題文の意図や解答方法が何であるかを的確に捉えることが課題である。

Bの調査では、読書についての標語を考える問いで、文章に表れているものの見方について、自分の考えを持ったり、文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして書くことはおおむね良好な結果である。しかし、落語を味わう問いでは、本や文章から目的に応じて必要な情報を読み取ったり、人物の言動の意味を考え、その姿を想像し、それらについて自分の考えをまとめて書くことについての的確に捉えられていない。

数学の調査について

Aの調査では、「～を計算する」「～の値を求める」「方程式～を解く」等、計算する・解くことができるかをみる問いでは、比較的良好な結果であるが、分数の除法（わり算）の計算では、計算方法（逆数をかける）の意味を的確に捉えていない生徒も見られた。一方、単項式どうしの除法の計算では、単項式の乗法（かけ算）や除法の意味を理解し、確実に計算することができる。また、資料の活用をみる問いでは、統計的用語が十分理解できていないことから、各問いの事象を考察し表

現することを的確に捉えていない。

Bの調査では、表やグラフから事象に即して解決することができるかどうかをみる問いでは、それぞれの関係を見だし、数学を活用しようとする能力は比較的良好である。一方、与えられた情報を読み取り、適切に対応を求める問いでは、事象の内容を十分に理解できず、思考にいたらない状況が多くみられる。事象を十分に把握し論理的に考え、問題解決に導く力を養うことを課題と捉えている。

## (2) 児童生徒に対する質問紙調査結果の分析内容について

### 小学生の質問紙回答より

- 家庭における一日当たりの学習時間について全国とほぼ同じ状況である。
- 授業以外で半数近くの児童が、毎日30分以上読書をしている。
- 9割近くの児童が、地域行事へ参加している。
- 「総合的な学習の時間」では、自らが調べたことを発表する学習活動の充実が求められる。

### 中学生の質問紙回答より

- 家庭における一日当たりの学習時間が平日及び休日ともに足りない傾向にあり、家庭学習の取り組み方や内容について検討することが必要である。
- 授業以外での読書に積極的に取り組む生徒が多く、毎日読書をする割合が9割近くに上る。
- 地域行事への参加が6割を超え、地域との絆が深まっている。
- 「総合的な学習の時間」は、将来役に立つと思う生徒の割合が比較的高く、自らが調べたことを発表する学習活動を積極的に取り組んでいる生徒が8割近くいる。

## 6 今後の取り組みについて

今回の調査結果の分析から、本教育委員会では、次のように考えます。

文部科学省が学力の3要素として

- 基礎的、基本的な知識・技能の習得
- 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- 学習意欲

の3点を示しています。

本町の教科に関する調査結果については、特に知識・技能の活用に課題があることが確認されました。これにより、思考力・判断力・表現力等を身につけるための授業のあり方を再度検証するとともに、何よりも児童生徒が意欲的に学習（授業）へ取り組むための教材・教具の工夫・改善あるいは開発など、一人ひとりを大切にした教育の実践が重要であると考えます。

次に児童生徒に対する質問紙調査から見てきたことは、小学生と中学生で発達段階の違いはありますが、学校で習ったことの復習や、次の授業に向けた予習等を家庭において「やってみよう」「やってみたい」などの意欲化を図り、継続して学習に取り組む力を身につけることが重要だということです。しかしながら、本町は、読書への取り組みや地域行事への参加など興味・関心を持つことで、意欲的に取り組んでいる児童生徒が多いことも再認識することができました。

これらの環境を創り上げるために本教育委員会では、これからも学校と家庭・地域と一体となって学校教育の推進を図っていきたいと思います。